徳川美術館　名品コレクション展示室

令和6年 3月26日(火)～6月9日(日)

展示期間　A:3/26(火)～4/18(木) B:4/19(金)～5/12(日) C:5/14(火)～6/9(日)

凡例:⦿は国宝を示します。

【第5展示室】

大名の雅び　－ 奥道具 －

大名自身やその夫人・子ども達の私的な生活の場「奥」で、身の回りを飾ったり、使用した道具、また教養を高めたり、趣味や遊びに用いた道具を奥道具という。大名の華やかな生活をしのばせる豪華な蒔絵の調度品は、婚礼の際の入輿道具に多い。その種類は、香道具・化粧道具・文房具・飲食器、旅道中具・遊戯具・楽器など多岐にわたる。

王朝文化の伝統をひく貝合せや聞香は、単なる遊びではなく、武家の婦人に欠かせない教養だった。楽器の演奏も、たしなみの一つである。古くから宝物視されていた古筆や古画はもとより、江戸時代の狩野派・土佐派の作品や、浮世絵なども愛好されていた。

No.	指定	名　　称	作者・所用者・所蔵者・寄贈者など	時代	世紀	期間
1		源氏物語図屏風　六曲一双		江戸	18	A
2		熱田社参詣曼荼羅図　二曲一隻	伝狩野賢信筆	室町	16	B
3		洛中洛外図屏風　六曲一隻		江戸	17	B
4		酒呑童子屏風　六曲一双	美濃部重克氏寄贈	江戸	17	C
5		「大学」扇面貼込帖	徳川義直(尾張家初代)筆	江戸	17	A
6		徳川義直手習手本　七帖の内	伝本阿弥光悦・松花堂昭乗筆	桃山-江戸	17	A
7		源氏物語抄	伝東福門院和子(後水尾天皇中宮)筆	江戸	17	B
8		二条行幸次第		江戸	17	B
		二条行幸図　二巻の内 下巻		江戸	17-18	B
9		大江山絵巻(酒呑童子絵巻)　三巻の内 中巻		江戸	17	C
10		菊折枝蒔絵小角赤手箱	伝転陵院好君(尾張家9代宗睦正室)所用	江戸	18	AB
11		菊折枝蒔絵大角赤手箱	伝転陵院好君(尾張家9代宗睦正室)所用	江戸	18-19	AB
12		橘唐草蒔絵歯黒箱		江戸	19	AB
13		橘唐草蒔絵嗽茶碗・台		江戸	19	AB
追加		橘唐草蒔絵鏡立		江戸	19	AB
		蓬莱文白銅鏡　銘 福嶋出雲守藤原吉定　附 橘唐草蒔絵鏡巣		江戸	19	AB
14		橘唐草蒔絵鼻紙台		江戸	19	AB
15		葵・浮線菊紋散唐草蒔絵将棋盤		江戸	19	C
16		葵・浮線菊紋散唐草蒔絵碁盤		江戸	19	C
17		葵・浮線菊紋散唐草蒔絵双六盤		江戸	19	C
18	⦿	初音蒔絵耳盥・輪台	霊仙院千代姫(尾張家2代光友正室)所用	江戸	寛永16年<1639>	AB
19	⦿	初音蒔絵薫物壺・台	霊仙院千代姫(尾張家2代光友正室)所用	江戸	寛永16年<1639>	C

【第5展示室の見どころ　－国宝　初音の調度－】

初音の調度は、寛永16年(1639)9月21日、3代将軍家光の長女・千代姫が、尾張家2代光友に婚嫁する際に持参した調度で、日本一豪華な嫁入り道具といわれる徳川美術館の代表的所蔵品の一つである。鏡台や貝桶、三棚などの蒔絵調度を中心に、染織・金工品など総計70件が国宝に指定されている。「初音の調度」の名は、『源氏物語』「初音」の帖の「年月を松にひかれてふる人に今日鶯の初音きかせよ」の歌意を全体の意匠とし、その歌の文字を葦手書きに散らしていることに由来している。